

住民主体型の保健活動の推進過程と連携について

ー 香川県下の保育所における地域づくり型保健活動の事例から ー

直島 淳太** 福永 一郎* 足立 江理** 小川 陽子***

秋山 和子** 藤内 修二**** 實成 文彦*

(*香川医科大学人間環境医学講座 衛生・公衆衛生学)

(**香川県坂出保健所 保健予防課)

(***香川県飯山町役場)

(****大分県佐伯保健所)

要 約：いわゆる「地域づくり型保健活動」の推進が行われている事例として、保育所を場とした「子育て世代の健康づくり活動」を報告した。飯山町立飯山南保育所（香川県飯山町）にて、園児の親または家族を中心にして、保育所職員、町職員、保健所職員、大学研究者などの学識経験者を含むメンバーが援助する形態で、地域での子育て世代の健康作りについての理想的なあるべき姿を描き、そのための目標を設定した。この過程において、親の参加するセルフヘルプグループが能動的な健康づくり活動の担い手となり、住民主体の協働型保健活動のモデルケースとなることを目指した。今回の活動過程は保健計画の推進過程そのものであり、活動の推進過程から、住民主体型の保健計画的手法は、保健と福祉の連携に良好な効果をもたらすことがわかった。

キーワード：連携、地域づくり、保健計画、住民主体、セルフヘルプ、Precede-Proceed Model

はじめに

住民が自らの生活の質を向上させ、健康に関する主体的な活動を行い、行政や地域における専門家はその活動を支援するということが、今後の保健活動においては重要な要素である。このたび、香川県下の保育所において、保育所へ児を預けているの親の主体的参加による子育て世代の健康づくり活動を実施中であるのでその概要を報告し、連携に対する効果について述べる。

地域の背景

香川県飯山町は、飯山町は香川県の中央部に位置する。地形は平野部が大半をしめ、耕地率は 42% と高い。平成 9 年 10 月 1 日時点での人口は 16398 人（男 8009 人、女 8389

人）である。

町の主な産業は農業であり、稲作の他、果樹や近郊農業が盛んである一方、高松市、丸亀市、坂出市など県内の主要都市から近く、これらの市部に勤務先を有する者は多い。保育所は町内に 2 か所あり、その他に町営の子育て支援センターがある。

活動の端緒と経緯

1998 年夏頃、町管理栄養士（保育所給食に一部関与している）が、保育所関係者から最近の子育てについての問題点について語られる機会があり、保育所とタイアップして健康に関する事業を展開できないかとの構想があった。一方、町栄養士の側も、日常生活習慣病対策事業や、母子保健事業を通じて、20

代、30代のいわゆる子育て世代の食生活・健康づくりに対して新たな活動の必要性を感じ、保健所栄養士との方策について検討をしていた。しかしながら、従来の行政側、サービス供給側がメニューを用意し、利用してもらうという形態では、ことに若い世代を対象とした事業では魅力に欠けたり、必要性を理解してもらうことに困難があり、行き詰まりを感じていた。

このとき、厚生省地域保健特別推進事業の追加募集があり、上記の子育て世代の食生活・健康づくりについて事業費を獲得できないか検討することとなり、保健所医師が検討に参画、住民自らが地域の理想を描き、目標をたて、現実とのギャップを認識し、必要な活動を企画するいわゆる「地域づくり型」の保健活動の概念を取り入れてはどうか、また、その活動のノウハウが今後の町の保健行政のモデルになるかもしれないのでやってみてはどうかという提案があり、事業費を申請したところ、国庫補助が認められ活動を実施することになった。

活動の概要

飯山町立飯山南保育所（香川県飯山町）にて、園児の親または家族を中心に、保育所職員、町職員、保健所職員、大学研究者などの学識経験者を含むメンバーが援助する形態で、地域での子育て世代の健康作りについての理想的なあるべき姿を描き、そのための目標を設定することとした。

ついで、必要な条件の調査・検討を行い、目標実現のための条件を設定し、その条件に従って必要な活動は何かを検討する予定とした（現在は実施途上）。この過程において、親の参加するセルフヘルプグループが能動的な健康づくり活動の担い手となり、住民主体の協働型保健活動のモデルケースとなることを目指した。具体的には以下のような要項で事業が進められた。

a.セルフヘルプグループを中心とした活動計画のための検討会議

ア. 基調講演：導入として位置づけ（図1）

イ. 話し合い：あるべき姿、目標設定
来年度早々に目標実現のための条件の検討を行う予定

b.基礎資料の検討

上記1.での検討過程の資料とするために、平成11年3月に、以下の検討を行う予定

ア. 既存の統計を検討する

イ. セルフヘルプグループの構成員を対象とした子育て世代の健康づくりに関する質問紙調査を実施。

c.事業実施に関する検討会など

ア. 事業打ち合わせ会（11月より保健所、町役場、保育所関係者で数回行った）

イ. 先進地視察（大分県佐伯保健所）

地域づくり型保健活動の視察を行った。共同研究者の藤内が、足立、秋山、小川、福永を対象に具体的な実践・研究指導を行った。

事業経過

1) 第1回検討会

園児の母親代表を対象に、本事業の説明とセルフヘルプグループについての概説を行ったのち（図1）、子育て世代の健康づくりのあるべき姿、目標設定、目標実現のための条件の検討を試行した。まず、参加者全員が、子育て世代の生活について感じている「現状（子育て世代の悩み・喜び）」「希望（どうなったらいいのかな?）」「目標（そのために私たちができること）」を紙に書いてもらい、それを大きな模造紙に添付した。そして主として親を中心にディスカッションを行った。

検討会のあと、坂出保健所において話し合われた「子育て世代の健康づくりのあるべき姿、目標設定、目標実現のための条件の検討」の結果を整理した。

2) 第2回検討会

(1) 基調講演として以下を行い、地域づくり型保健活動の概要について説明した。内容については図1に示した概念を講演した。

(福永の講演内容, 1999.2)

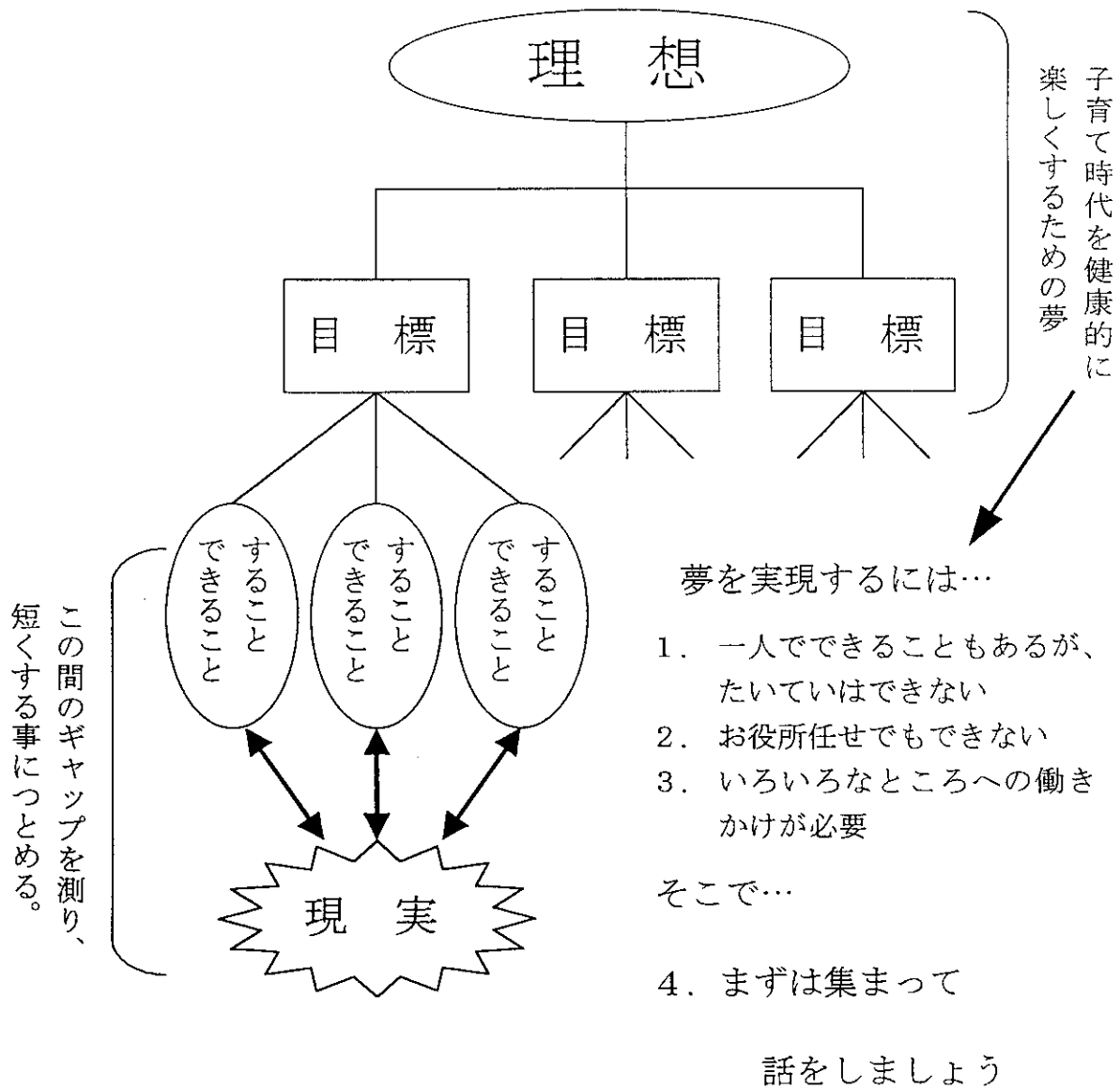


図1 理想に基づく目標設定と、目標実現のための条件の検討

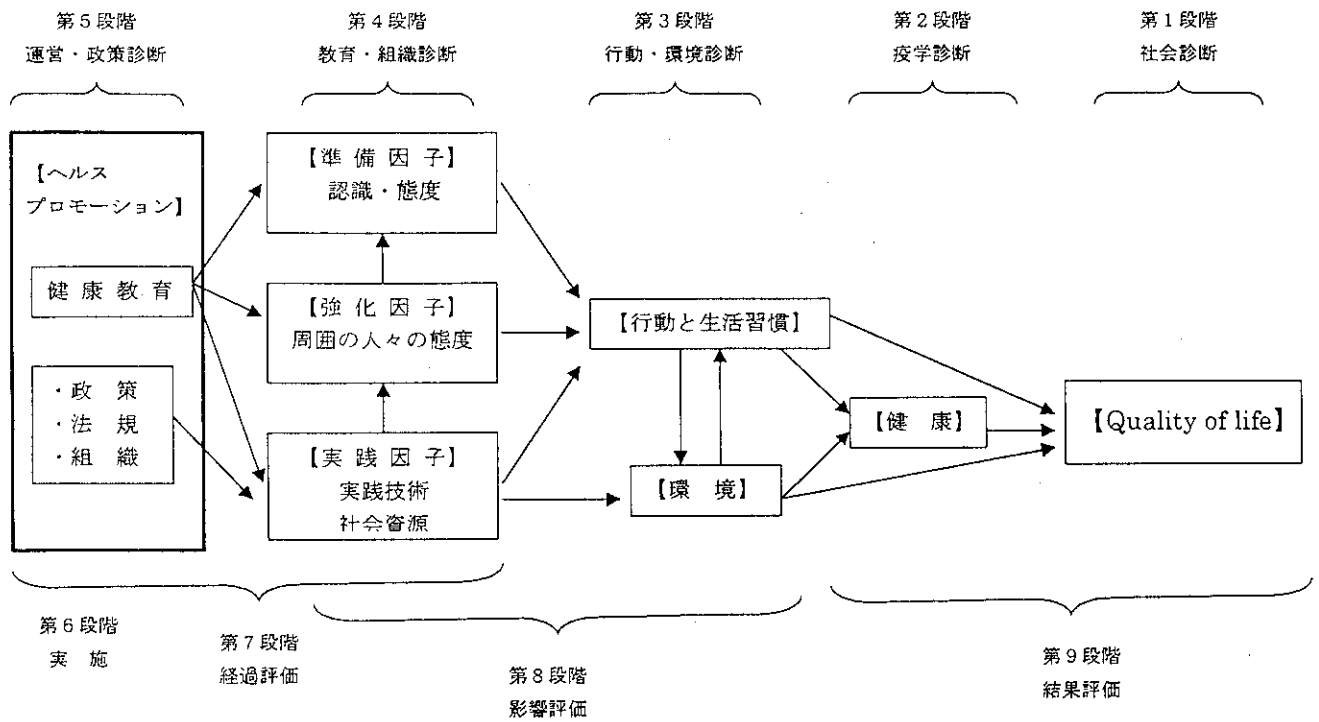


図2 Precede-Proceed Model (Green. et. al, 1991)

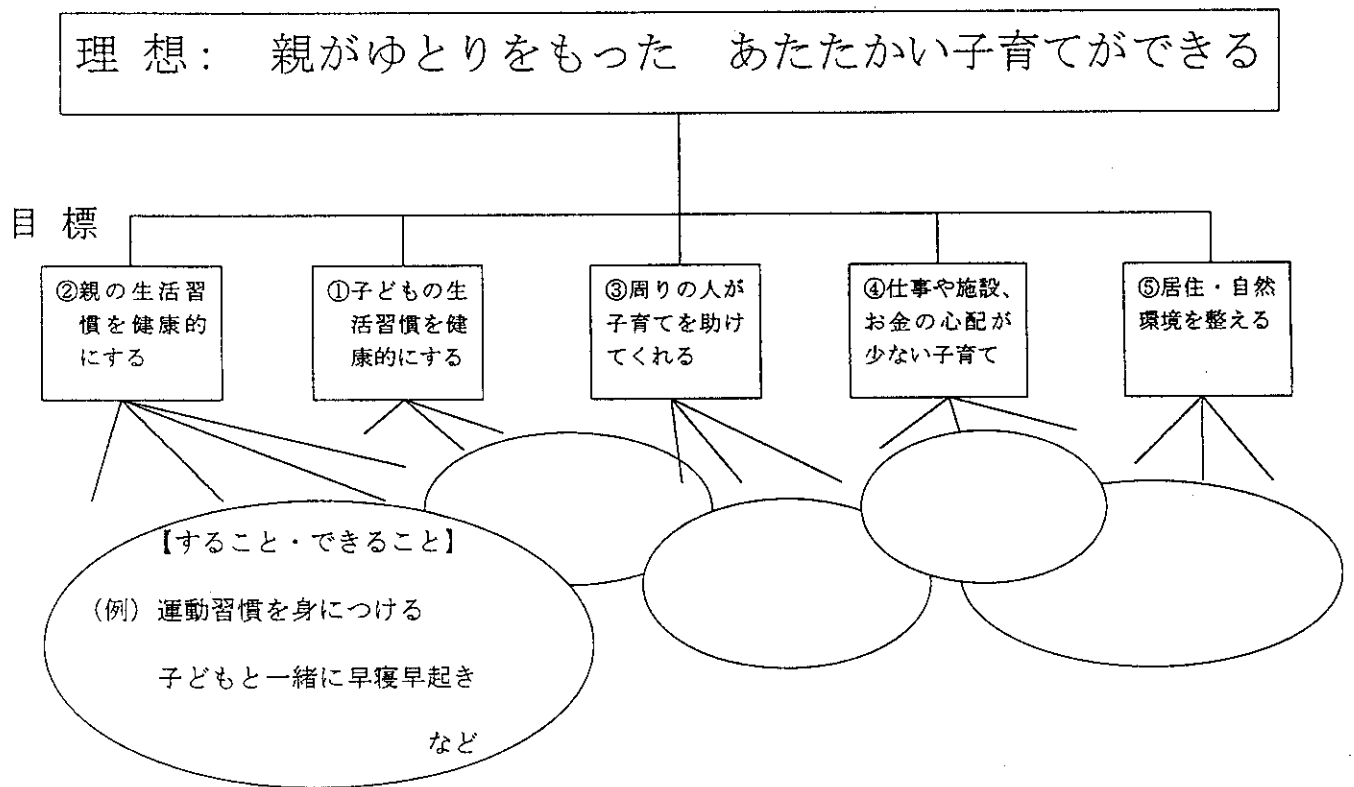


図3 みんなで描いた理想と目標

日時：平成11年2月19日（金）
会場：飯山町立 飯山南保育所
演題：「みんなで考えよう子育てと健康」
講師：福永一郎（香川医科大学人間環境医学講座 衛生・公衆衛生学 助教授）

(2) グループワーキングの結果

園児の母親（一部は父親、祖母）の参加によるグループワーキング（話し合い）を行った。参加者による小グループ（1グループ 7～10名）を9グループ設定し、第1回で話し合われた「子育て世代の健康づくりのあるべき姿、目標設定、目標実現のための条件の検討」のまとめた結果を提示し、各々のグループ内で話し合いによって、子育て世代の健康づくりのあるべき姿、目標設定、目標実現のための条件の検討を行った。話し合いの後、第1回検討会と同様に「現状（子育て世代の悩み・喜び）」「希望（どうなったらいいのかな？）」「目標（そのために私たちができること）」を紙に書いてもらい、検討会後保健所において整理し、Precede-Proceed Model¹⁾（図2）へのあてはめを行った（表1）。

3) 第3回検討会

母親代表及び任意の参加者で、グループワーキングで得られた子育て世代の健康づくりのあるべき姿、目標設定、目標実現のための条件のまとめを行った。ついで、地域でのあるべき姿と目標を立てた。その結果を図3に示した。

本活動の成果

本活動は保健部署である町役場、保健所、児童福祉施設である保育所、研究機関である大学が連携し、当事者を中心に据え保健計画の手法により連携構築を行ったものである。

本活動は、「話し合い」が活動推進上の大きなウエイトを占めている。話し合いにあたっては、「子育て世代の健康づくりのあるべき姿、目標設定、目標実現のための条件の検討」について書き込めるシートを個別に用意した。話し合いでは、いわゆる「声の大きい

人」の意見が支配しないように、また、意見を述べることによって以降の人間関係への影響を最小限にするために、話し合いとこの調査シートへの記入とを併用した。

ついで、話し合いの結果をまとめるに当たっては、ヘルスプロモーションの具現化モデルとして Green らが提唱・開発した Precede-Proceed Model を利用し、できるだけ悉皆的に意見を採り上げられるように心がけた。なお、現在進行中のこの過程は、保育所に関係のある「みんな」で、あるべき姿を定め、目標を設定し、以降現実とのギャップを知り具体的な活動方法を策定する予定で、これは保健計画の推進過程に他ならない²⁾。

本活動の特徴的な点は、保育所保育や町管理栄養士が別々に持っていた思いというのが、当事者（親）の主体的参加による「保健計画づくり」という方法で、当事者の意思が反映されたものとして包括化され、活動へ展開しつつある。本活動は、保健部署と児童福祉施設の連携であり、保健、福祉の連携のモデルケースでもあるが、当事者主体の活動を行うことによって、目的共有（子育て世代のQOLの向上と次世代・こどもの世代への反映）が速やかに行われ、急速に連携を深めることができた。このような保健計画的な手法が連携に及ぼす効果を一部実証している活動であると思われる。

結 語

住民主体の保健・福祉活動、いわゆる「地域づくり型保健活動」の推進が行われている事例として、保育所を場とした「子育て世代の健康づくり活動」を報告した。活動の推進過程から、住民主体型の保健計画的な手法は、保健と福祉の連携に良好な効果をもたらすことがわかった。

文 献

- 1) 吉田 亨. プリシード/プロシードモデル. 保健の科学 1992;34:870-875.
- 2) 福永一郎、實成文彦. 計画づくりの手法—保健計画推進に必要な要素からみた計画づくり手法について. 公衆衛生 1998;62:706-714.

表1 親たちのヒアリング、討議内容の分類
(Precede-Proceed Modelへのあてはめ)

1. QOLに関すること

こどもとのコミュニケーション	イライラしないでゆったりと子育てしたい
	子供とのコミュニケーションは大切。子供にゆっくり接してあげる時間をとりたい。
	先生方にも、充分に自身の子育てをしてから保育所にもどってきてほしい
	もっと子供と接する時間がほしい
	仕事から帰って子供の顔をみたらうれしい、ほっとする
	子供とのコミュニケーションは大切。子供にゆっくり接してあげる時間をとりたい。
	子供との時間を大切にしたい
	子供と接する時間が取れない
	もう少し子供とのふれあいの時間があったらいいのになあ
	食事と同様あまり子供と接する機会もなかった。
こどもの発達	忙しいので子供と十分に遊んだり話をする事ができない
	忙しくて子供との時間がとれないので、子供と少しでもコミュニケーションをとれるようにしたい
	何でも食べて元気な子供でいてくれたらと思います
	兄弟が仲良く遊ぶようになってほしい
	兄妹とも、親の気づかないうちに成長し仲良く遊べるようになった
こどもの生活	子供が兄弟けんかがたえないので仲良く遊んでくれたらよい
	子供には自分の気持ちを言えるようになってほしい
	子供の成長が嬉しい
親の生活	子供に朝食をとってほしい
	早く寝て、朝はスッキリと目覚めてほしい
	朝食をきちんと食べてほしい
食生活	少しでもいいから自分の時間がほしい
	ゆっくり寝たい
全般	自分はずっとゆっくり寝たい
	3世帯にあう食事づくりができればよい
	これからも何でも食べて元気に育ってほしい
全般	みんなで一緒に食事をたべられたらいいな
	みんなで話し合える機会があるといいな(全員で)
全般	もっとたやすく家を買いかえることができれば良い(アメリカのように)

2. 健康に関すること

親の健康	今、自分が病気になると、無茶苦茶なことになりそう。
	自分が病気をしたらとても困る。子供の送迎、食事など。
	体重減
	やせたい
	私は病気はしない。
	子供をしかってばかりで、自分がうるさい
	自分はやせたい
こどもの健康	数ヶ月の間に0kgも太ってしまっやせない。
	体重を減らしたい
	最近の子供は年齢の割にませっており、会話の内容が複雑であると 感じることもある
	子供が自分の性器をいじるくせがある(男児)
	指しゃぶりがなおらない
全般	指しゃぶりが幼稚園までになおるとよい
	自分の性器をいじるくせがなくなるといい

3. 行動と生活習慣に関すること

育児行動	<p>子供を冷静に見られず対等に言い合ってしまう。さめた目で見てしまう。</p> <p>自分がイライラしているとき、ささいなことで子供を怒ってしまう</p> <p>食事と同様あまり子供と接する機会もなかった。</p> <p>忙しく気持ちにゆとりがないため、子供を大声で怒ってしまう</p>
親のライフスタイル	<p>運動する。</p> <p>子育て、仕事、家事、自分の時間の両立</p> <p>子供に気をとられ、イライラしがち</p> <p>自分自身が運動不足である。車に乗ることが多く、歩くことが少ない。(子供たちも同様)</p> <p>テキパキと家事が片付き家の中がいつもきれい(理想)</p> <p>運動不足がみ</p> <p>家の中が片付かない</p> <p>後片付けをしない。子供も父親も。</p> <p>後片付けをする。1日の終わり、寝る前に。</p> <p>休みの日も早寝早起きをする。</p> <p>子育てのストレスがたまる</p> <p>子供が言うことをきいてくれたらいい。</p> <p>自分の減量を目指して運動する。</p> <p>自分は朝7時には起きたい</p> <p>自分自身が運動不足である。車に乗ることが多く、歩くことが少ない。(子供たちも同様)</p> <p>親もできるだけ規則正しい生活をする</p> <p>親同士のコミュニケーションにも入れていないお母さんがいる。</p> <p>保育所が休みの日に子供2人と1日中一緒にいるとイライラしてしまう</p>
子のライフスタイル	<p>アトピー性皮膚炎のため、寝つきが悪い</p> <p>父親の帰りが遅いので、ついだらだらとした時間をすごしてしまう。(食時、入浴、睡眠等)時間が不規則</p> <p>子供がキャラクター商品に夢中になりすぎる</p> <p>子供が後片付けをしない</p> <p>子供たちの独占欲が強いため兄がけんかが起こる</p> <p>子供と自分は夜早く寝る</p> <p>子供には7時には起きてほしい</p> <p>子供には9時に寝て7時半には起きてもらいたい</p> <p>子供には後片付けをしてほしい</p> <p>子供には朝早く起きてほしい</p> <p>子供に入浴・歯みがき・就寝をきちんとしてほしい</p> <p>子供の兄弟げんかがたえない</p> <p>子供の寝付きが悪く、翌朝は起きられない</p> <p>子供は家に帰るとビデオばかり見る</p> <p>子供全員が母親と一緒に横で寝たがる(時間が一緒)</p> <p>朝、起きるのが遅い</p> <p>子供は、ビデオを時間を決めて見てほしい</p> <p>部屋を散らかす</p> <p>部屋を散らかすので、きちんと片づける</p> <p>保育所が休みの日はどうしても夜更かしする</p> <p>夕方から寝るまで生活がだらだらしている</p> <p>歩き始めて、目が離せない。</p> <p>子供は自分の思っていることを言えないようだ</p>
食生活	<p>子供たち(兄弟)によって好き嫌いがちがう</p> <p>忙しさに合わせて惣菜物の利用が多いので食事のバランスが崩れる</p> <p>おかしばかり食べる</p> <p>おやつを食べ過ぎ</p> <p>給食の時ならがらばって食べている。</p> <p>子供がだらだら食いをして食事の時間がかかって困る</p> <p>子供中心の食事づくりになる</p> <p>ご飯の時間が長い</p> <p>ご飯は短時間に食べてほしい</p> <p>ご飯を食べず、パンばかり食べる</p> <p>食事で作ったものを子供が全部食べてくれたらいいのになあ</p> <p>好き嫌いしないで何でも食べられる子供である</p> <p>食べ物の好みと栄養のバランスが一致しない。</p> <p>パンだけではなく米飯も食べてほしい</p> <p>何でもたくさん食べてほしい</p> <p>何でも食べるようになってほしい</p> <p>好き嫌いしないで何でも食べられる子供である</p> <p>子供がだらだら食いをして食事の時間がかかって困る</p> <p>子供が朝食をとらない</p> <p>子供たち(兄弟)によって好き嫌いがちがう</p> <p>子供の食事に長い時間がかかる</p> <p>子供の食事時間を30分程度にしたい</p> <p>就寝が遅く朝食を食べない</p> <p>食べ物の好き嫌いがちが多い</p> <p>食事で作ったものを子供が全部食べてくれたらいいのになあ</p> <p>食事の内容が偏っているように思う</p> <p>食生活のバランスが悪いと思う。わかっているけどなかなか</p> <p>よい食事がつけれない。</p> <p>偏食がある</p> <p>野菜を食べない</p> <p>両親や祖父母と時間が違うので子供が食事を何回もする</p>

4. 環境に関すること

自然環境	土とふれあうような機会が飯山では多くてよかった。畑に野菜が植わっているのを見たり、働いている人を見るだけでもいい。園庭でとれた自分が育てた野菜ならよく食べる。 野焼きが多く(農作物ではなくビニールや廃材、プラスチック等)。環境ホルモン等の影響が心配。
社会・経済的環境	教育費の増加 近所に子供がいないので、遊び相手がいない。 子育て支援センターができたのはいいが、保育所の入所基準がきびしくなってしまったのでは…。最近3年保育が主流になってきているので、うちの子も早く集団生活に慣れたいけど、幼稚園でもまだ入れてくれない…。仕事もさがしたいのだけど…。 働きたいが、小学生の子供がいるので、夏、冬、春休み等にあずけられるところがない 病院の待ち時間が長い 夫が子供の送迎をするようになって、母子の時間が短くなった。 ストレスのためか、子供は落ち着きがなくなってきた
住環境	南地区の大切な文京地域に国道がつこうとしている 我家は、他の家に囲まれている為日当たりが悪い。昼間もうす暗いので、気分まで沈んでしまう。他の家と比べ、気温も低い(ような気がする) 外で遊ばせたいが、忙しいので家の中で遊ばせている 物置きスペースがほしい 家の中がおもちゃだらけ 家の中のおもちゃを少し減らしたい。 家のおもちゃの量を減らす。 壊れたおもちゃは捨てるか、倉庫へしまう。 これ以上家が増えない方がいいような気もしてしまう。 通学途中も危険だし、どうしても廃棄ガスの影響があり、国道の経路を変えて欲しい。

5. 準備因子

生活を規則正しく	自分は朝早くに起きることができない 就寝が遅いため、朝も遅い。 就寝時間が遅い
こころを落ち着ける	子供から離れて、ストレス解消やリラックスする時間をつくる ささいなことで子供を怒らないよう、心にゆとりを持ちたい ゆとりをもって子供に接することができる 娘と娘の溝をうめたい。娘とけんかのできる仲になりたい。自分を変える 気持ちに余裕を持って生活する 子供から離れて、ストレス解消やリラックスする時間をつくる 保育所が休みの日に子供2人と1日中一緒にいるとイライラしてしまうので、もう少し自分に余裕がもてたらいいな 気持ちに余裕を持つよう心がける (祖父母の干渉を)気にしないで楽しく食事をする
食嗜好の問題	食べ物の好みと栄養のバランスが一致しない。 食べ物の好みと栄養のバランスを一致させる 子供とどう接しているのかわからない(ビデオやテレビを身せっぱなしの場合も…) 子供が言う事を聞かないときは、少し気持ちを落ち着かせてほっておく。 子供が自分の気持ちをいえるよう気長くしつける 子供が納得する叱り方を知りたい 子供をきつくつけてしまう 子供をきつく叱ってしまうので、ゆとりをもって子供に接する 子供をどうしかついているのかわからない 指しゃぶりをしないよう、ほかのことに気をむかせせる 時間まではがまんさせる。遊んで気をまぎらす 時期がきたら遊び食べも落ち着くだろう 自分の性根をいじることにあきらむようになるまで待つ 上手な叱り方がわからない 子供のしつけ。どこまで怒っていいのか 子供をしかるときの方法について相談する 買い物につれていけない 部屋を散らかすので、片づけの習慣を身に付けさせる 子供と別の布団で寝る。寝るをさせず夜は早く寝る ご飯の前にものを食べさせないようにする だらだらしないできちんと食べさせる もう少し勉強のスピードを遅くしてのびのびできるようになればいい 小学生の勉強方法
惣菜の利用	惣菜とどんなものを買えばいいのか知る どこにいけばそういう惣菜がそろうかの情報を知る バランスのとれた惣菜が買えたらいい 3世帯にあり食事づくりができればよい 1日30食品を目標につくる 食事を作るのが苦手 野菜や魚を使用した料理をつくる 家庭菜園で野菜を作る
食材・調理の問題	めんどうがらずにバランスの良い食事を作る バランスがとれていてかつ魅力ある食事にする 食事をいろいろ工夫して食べさせてみる 野菜や魚を使用した料理をつくる 野菜を食べてもらえるよう料理の切り方などを工夫する 野菜を食べるよう調理を工夫する 朝食を子供が食べやすいように工夫する 子供中心の食事づくりになる

6. 強化因子

家庭での問題	主人と子供と一緒に寝てほしい
	土、日、祝祭日も父親が仕事のため、子供とゆっくり遊ぶ時間がなく(子供たちが)おもいっきり外で遊びまわることも少ない。
	病気をした時に皆が気がつかけてくれる
	自分が家事をしている間は夫に遊んでもらいたい
	子供がキャラクター商品に夢中になりすぎるので、子供と一緒にいる時間を長く、楽しく相手をする
	子供が親の生活スタイルに合わせているので、遅寝早起きである
	子供が入浴・歯みがき・就寝などをいやがるとき、大声で怒ってしまう
	子供たちの独占欲が強いための兄弟げんがで上の子(兄)は兄弟げんかの際おれてほしい
	兄弟げんかの際、兄におれてほしいので、兄をおだててけんかをやめさせる
	子供とのコミュニケーションをとり、子供を理解してあげる
	子供にキャラクター商品以外の物事に目をむけさせたい
	子供にはもう少し寝てほしい(親が健康であるために)
	自分が工夫して子供を起こさないようにする
	自分が病気をしたらとても困る。子供の送迎、食事など。
	自分が病気をしないようにする。
自分なりの子育ての考えがあるので周りは合わせてほしい	
親の都合で子供をしかることがある	
病気をした時に皆が気がつかけてくれる	
親の都合で子供を叱ってしまうので、子供とコミュニケーションをとる	
遊び食べをあたたく見守ってやる	
親と祖父母との関係に起因する問題	おじいちゃんが子供におやつを与えてしまうので夕食を食べない
	家事をしていると、子供に本を読んでやるひまがとれないのだが、祖母が時々やってきて本を読んでやってくれたら、祖母にとってもなついてくれるようになった。
	近所どうして助け合いができるような雰囲気になっていられたい
	子供を怒ると、子供が祖父母の所を逃げ場にして作ってしまう。
	姑が言うことに対して、腹が立つ時がある
	食が細くて量を食べない。祖父母がもっと食べなさいとうるさく言う
	祖父母が孫の食事のことをうるさく干渉しなければいいのになあ
	祖父母との同居。手だすだけで自分の時間をもてたらいと思うがなかなか無理がある
	嫁と姑の溝をうめたい。何でも相談でき言い合えるようになりたい
	嫁と姑の溝をうめたい。姑とけんかのできる仲になりたい
	姑が言うことに対して、腹が立つ時がある
	子育て(甘やかす程度)の考え方の違い
	子供のしつけについて祖父母はあまり自分達の意見を通さないでほしい
	子供のしつけのことで祖父母と意見が合わない
	子供を怒ると、子供が祖父母の所を逃げ場にしてしまう。
食が細くて量を食べない。祖父母がもっと食べなさいとうるさく言う	
祖父母が孫の食事のことをうるさく干渉しなければいいのになあ	
祖父母の意見を気にしないで楽しく食事をする	
孫のしつけのことで子供と意見が合わない	
近隣の問題	親どうしのコミュニケーションがグループごとになってしまっている。忙しくて、グループのコミュニケーションにも入れていないお母さんもいる。
	最近「他人の子供をみる」というと、責任からか、いやがる人も増加してきている。
	近所に子供がいないので、遊び相手がいない。
	近所に同年代の子供がいない
公共サービスの支持	最近「他人の子供をみる」というといやがる人が増加してきている。
	小学校の学童保育を3時ぐらいまでしてもらえれば良いと思う
	働いていないお母さんにももっと援助を
	家のママがあまり食事をつくらないので色々好物を食べるように先生が上手に食べさせてください
	仕事をしていると年休があっても子供の日々の変化に対応してやれないので、病気の時などみてほしい
	自分が病気になるたとき、子供を連れて受診するのは気が引ける
	自分が病気になるたとき子供をつれて受診するのは気が引ける。病院でめんどうを見てもらいたい

7. 実現因子

家庭でできる工夫	家事の上手な片付け方法 学校で習ったのは、生活力となり得るような形でなかった。もっと実践的なものを学べていたらよかった。 子供の兄弟げんかの仲裁 子供の送迎、おかず一皿など
公共施設や行政基盤	ゆとりある人員配置。保母さんの増員 町立図書館の駐車場が狭い。もっと広くしてほしい。 町立図書館は絵本の数が少ない。もっと新しい本が入ったらよい 飯山の図書館は絵本の数が少ない 飯山町立図書館の駐車場が狭い 町と事業者が協力して事業所から出るゴミをきちんと処理してほしい。
経済の問題	家計のやりくり方法 黒字になる 家計のやりくり方法。黒字になること。
食に関する問題	食べ物の栄養に関する情報収集 おかしを減らす おかしを食べないように 買い物につれていけない タイヘイの食事メニューをとりだした 決まった時間に量を決めてあたえる 食事の内容が偏らないような便利な食材があればよい
医療の制度などの問題	3才までの医療費について書類を作成・提出するのが面倒だ 3才までの医療費免除に関する書類を作成・提出するのが面倒なので、出さなくてもすぐ帰られるようになるとうい 3歳まで医療費が無料 3歳児まで医療費が無料。小1になるまでせめて無料だったらな。 永久歯に生え変わるまでは、歯科医療費が無料になればいい 子供の医療費の中で、歯科医療費は7才まで無料にしてほしい 歯科医療費が7才まで無料になればよい 歯科医療費は、小学生まで無料にしてほしい 病院の待ち時間が長い。電話予約ができるようになってほしい
保育に関すること	早く保育所へ入れて欲しい。 親が気がねなく子供を保育所に預けたい 飯山町では、保育所で4、5歳児の入所が認められず、働く母親にとっては、朝夕の5～10分程の時間でも大切なので入所を認めて欲しい。 保育所に途中からでもすぐに入れるようにして欲しい。 保育所に入所を認めて欲しい。 春休み期間中も、午前中だけは保育をしてもらいたい 小学校の学童保育を3時ぐらいまでしてもらえれば良い 早く保育所へ入れて欲しい。 土日も保育をしてもらいたい 土日に仕事がしたい。土日も保育をしてもらいたい 土曜日も平日同様5時ぐらいまでは保育所でみてほしい 飯山町では、保育所で4、5歳児の入所が認められない 保育所で4、5歳児の入所を認めて欲しい。 保育所でも6才迄(小学校に上がる)は見えてほしい 保育所で小学校にいくまで見てほしい。 保育所と幼稚園とのお迎えの時間に差がありすぎる。 保育所の春休みをなくしてほしい 保育所は3才児まで。4、5才児もみてほしい
労働や親を取り巻く環境の問題	再就職の為にいろいろな技能を身につけたいが近くにそういう場所が見当たらない。 主婦にも(安く)学ぶ場所がほしい 仕事をしていると、年休があっても、なかなか子供の日々の変化に対応してやれない 就学前の子供がいる間だけでも就業・終業時間を1時間減らしてほしい(たとえその間給料を減らされても) 飯山町の職員(保育所、幼稚園の先生方も)が育児休業がとりにくいらしい 保母さんが忙しそう。育児もとりにくいらしい。 再就職の為にいろいろな技能を身につけたいが近くにそういう場所が見当たらない。主婦にも(安く)学ぶ場所がほしい 子供は外で遊びたがっているのに親が忙しいので遊んでやれない 通勤先を近くする 土日・祝日も父親が仕事のため、子供とゆっくり遊ぶ時間がなく外で遊びまわること少ない。 父の仕事の帰りが遅く、子供との時間が少ない 父の仕事の帰りが遅く、子供との時間が少ないので、休日には家族みんなの時間が取れればよい 父親の帰りが遅いので、ついだらだらとした時間をすごしてしまう。 忙しいので、家の中の片づけが行き届かない。家の中を整理整頓する 忙しいので、家の中の片づけが今一つゆきとどかない 忙しいので子供と一緒に遊べない 忙しいので子供と十分に遊んだり話をすることができないので気持ちにゆとりを持って、時間を有効に使いたい 忙しくて子供との時間がとれない 忙しくて子供との時間がとれないので、寝る前5分間は絵本を読むようにする 忙しさがまけて惣菜物の利用が多いので食事のバランスが崩れる

平成10年度厚生省科学研究費補助金 健康科学総合研究事業
「保健行政サービスにおける医療・福祉との連携方策に関する実証的研究
(主任研究者 武田則昭)」分担研究

- I 住民から見た連携の必要性に関する研究
- II 保健サービスに対する連携の意識に関する研究
- III 福祉サービスに対する連携の意識に関する研究
- IV 連携実現のための保健計画の有効性に関する研究

研 究 報 告 書

発行日 平成11年3月

発行者 福永一郎 笠井新一郎 實成文彦

〒761-0793 木田郡三木町池戸 1750-1

香川医科大学人間環境医学講座 衛生・公衆衛生学

電話 087-891-2133

印刷所 (株)成光社

この冊子に関するお問い合わせは

〒761-0793 木田郡三木町池戸 1750-1

香川医科大学人間環境医学講座 衛生・公衆衛生学 福永一郎

電話 087-891-2133 e-mail : jinnta@kms.ac.jp までお願いします